

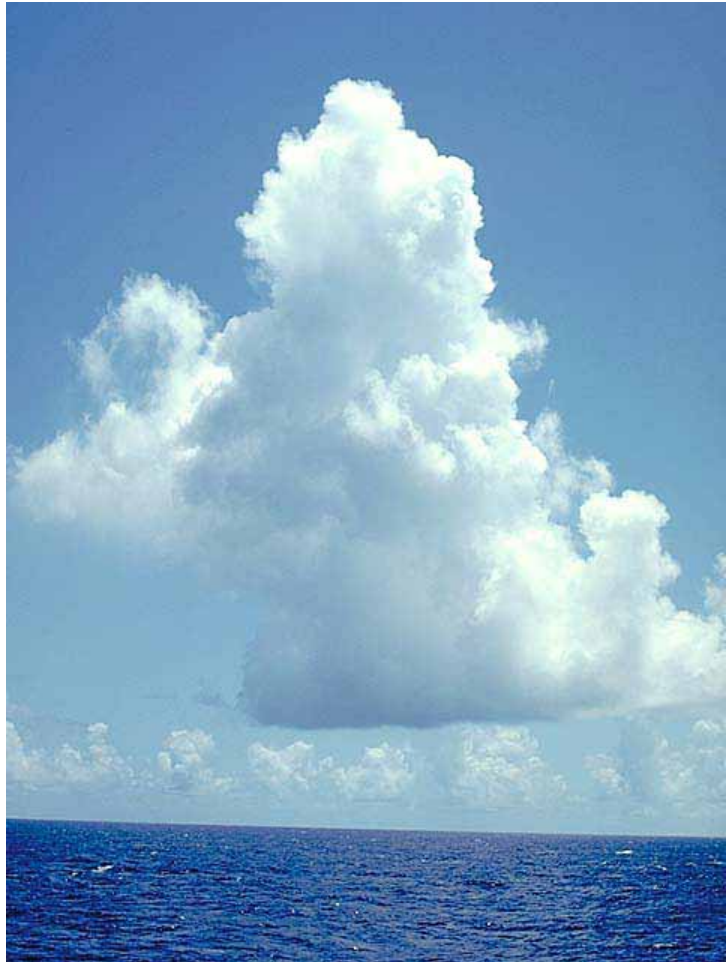


ライオンズクラブ国際協会
336 A 地区 2 R - 4 Z

西条

2009年7月号
No. 388

SAIJO LIONS CLUB



今月のTOPIX

第49代寺尾執行部スタート



2009-2010 年度

国際会長	エーバハルト・J・ヴィルフス
モットー	「WE SERVE (われわれは奉仕する)」
テーマ	「MOVE TO GROW (個人的成長と会員増強)」
336 - A地区ガバナー	武久一郎
スローガン	「ライオンの未来に、情熱と夢をもってウィ・サーブ」
キーワード	「初心」
西条ライオンズクラブ会長	寺尾信司
スローガン	「半世紀の歴史に向かい WE SERVE」
キーワード	「前進」

会長就任のご挨拶

第49代会長 寺尾信司

この度49代目の会長に就任いたしました寺尾です。この1年間会員の皆様よりよろしくお願い申し上げます。また、各委員会の委員長、副委員長の皆様も快く大役を引き受けていただき心より感謝いたします。

さて、西条ライオンズクラブもご承知のとおり結成49年目を迎え半世紀の歴史の最後の年となりました。会社であれ団体であれ50年間存在意義を持ち続けて活動することは大変なことです。48年間歴史を積み上げられた、先輩諸氏に敬意を表するとともに任務の重さに身の引き締まる思いです。

50年の伝統と言いましても、旧来よりの方法やアクティビティーに縛られていては組織は停滞し、行事をこなすだけになってしまいます。49年目のいまこそ新しい発想と行動で西条ライオンズクラブらしさが出せたらと考えています。地球規模でも西条という地域においても様々な問題が山積しています。我がクラブらしく様々なことに奉仕、貢献できるように今年1年会員各位のご協力とご支援を御願いたします。

100年に一度という荒波のなかに我々はいませんが、こういう時こそ何ができるか、何が大事かを全員で考え50周年にバトンタッチをしたいと思えます。何度も言いますが今年1年間よろしく御願申し上げます。



幹事就任のご挨拶

幹事 野間賢次郎

2003年度に入会し6年間、会長を始め執行部に就任された先輩方の大変さを一会員として遠くから見ておりましたが、まさかこの大役を自分が拝命することになるとは思いもよりませんでした。

本年度の会長のスローガンである「半世紀の歴史に向かい WE SERVE」という想いのもと、本年度の当クラブの活動がスムーズに運んでいきますように微力ながら頑張っていきたいと思っています。一年間よろしく御願いたします。



会計就任のご挨拶

会計 宮崎英明

2000年度、西条LC第40代の時に会計をさせていただいて以来、クラブ5役からはすっかり縁遠くなっていた私ですが、寺尾会長に諭され(?)この度2度目の会計を拝命することとなりました。こう見えて、緻密な計画のできる私です。皆様の大きな友愛につつまれながら、1年間職務を遂行することだけを考えてがんばりたいと思います。宜しくご協力の程、お願い申し上げます。



テール・ツイスター 就任のご挨拶

テール・ツイスタ 松浦 裕

今期テールツイスターをおおせつかりました。吉峯会長の時にこの役をしましたので、十数年ぶりのご奉公になります。先般、今治で行われた2リジョンの委員長スクールのツイスター分科会において、各クラブの半数以上の方が過去にツイスターを経験しているとのことで、各クラブの歴史の深さなのか、若い人材が足りないのかは説明がありませんでしたが、少し意外な気がしました。

最近の傾向としてはツイスターはクラブに必須の役職ではないとの考えもあるようですが、我が西条ライオンズクラブではずっとツイスターが例会の進行を受け持っていますので、私としましても寺尾会長を助けて一所懸命努力しますので、宜しく御願いたします。



ライオン・テーマー就任のご挨拶

ライオン・テーマー 伊藤正己

今年度、第49代寺尾会長の下、ライオン・テーマーを務めさせていただきます。ライオン・テーマーの役割を果たすべく、役員方々と協力し、会員皆様のお力を借り、微力ながら一生懸命頑張っていきたいと思っています。「前進」というキーワードを基に例会運営等、よりよく《チェンジ》していけたらと思いますので、1年間皆様の温かい御指導を宜しく御願致します。



出席・計画委員会委員長就任にあたって

委員長 原 育 雄

この度、計画・出席委員長を拝命いたしました。寺尾会長よりの横暴な命令に逆らえず引き受けることとなりましたが幸い委員会のメンバーは強力な布陣となっており安心致しております。

今年度も、前年度に続き年間純出席率90%以上を目標とし、委員会ごとの出席率の統計を取り出席率の悪い委員会へ注意を促し出席率の向上を図りたいと思います。また例年、早朝例会を年1回実施していますが、出席率の向上が見込めるのであれば、年2回の実施も執行部と相談して検討してみたいと考えております。

夏と冬の家族会につきましては、夏は当クラブ3回目の大型フェリーをチャーターしてのおかげん祭花火見物&瀬戸内海クルージングを計画いたしております。天候だけが心配ですが・・・委員会と執行部で協力して、会員並びにご家族様を満足して頂ける様なおもてなしをしたいと思っております。また冬の家族会につきましては、夏の家族会の収支と相談しながら決定したいと考えております。今年1年間よろしくお願ひいたします。



Y E ・国際協調委員会委員長就任にあたって

委員長 加藤 弘 道

本年度、Y E ・国際協調委員長をおおせつかりました。私で良いでしょうか・・・？昨年2008年度、夏期Y E 事業では愛娘2名をオーストラリアへ派遣していただいたことが、この度の委員長拝命に何らかのつながりがあるのだらうと感じています。

その節は、大変御世話になりました。あまり深く考えずにいいチャンスだからと、娘達を派遣していただきましたが、オーストラリアでの時間は彼女達をひと回り大きくして無事に帰してくれました。Y E 事業の素晴らしさは派遣生だけでなく、そこに携わった人たちにも素晴らしいものを残してくれることは、私が一番わかっています。方法や手順はどうであれ、この1年間をクラブの記憶に残るような委員会活動ができればと思います。皆さんにいろいろと御指導いただき、またご協力をお願い申し上げます。



2008年度2R会員・会則・EXT・指導力育成・プロトコール委員より～「1年間を振り返って」～
「 出会いから得るものがある 」 L . 瀬川大秀

昨年度、(2R-会員・会則・EXT・指導力育成・プロトコール委員)地区委員を務めさせていただきました、この間皆様のご協力に感謝し、厚く御礼申し上げます。

振り返りますと、リジョン内の諮問委員会をはじめ各種研修会への参加、さらに地区内各クラブの例会訪問等を体験させていただき大変勉強になりました。どのクラブもそれぞれの特徴があり、諸先輩が築かれた伝統を生かし、執行部を中心にクラブ運営をスムーズに遂行されていることに感銘いたしました。

私が担当いたしました委員会は、現在の社会情勢においては、100年に1度の経済不況での新入会員の獲得であり、逆風のなかでの会員増強活動となりました。また、会員増強と並行して退会防止に努力することの大切さも強調させていただきました。各クラブの会長をはじめ、会員委員の皆様には大変な努力ご尽力をいただき、感謝申し上げます。

述懐として、地区委員をさせていただいた「ご縁」により、幅広くライオンズクラブの先輩や仲間との出会いがあり、そこから得た体験は人格形成に不可欠な大切なものが多くありました。今後、貴重な体験をライフワークに生かすことができればと思っています。

浅学菲才な若輩者の私に、ご指導ご鞭撻賜りました関係者の皆様、心から感謝申し上げます、御礼とさせていただきます。





【第12回 献血・献眼推進研修会（2009年6月28日）出席報告】

L. 高橋 学

先日、「平成21年度 第12回 2R - 献血・献眼推進研修会」「次期クラブ委員長スクール」に参加してまいりましたので報告いたします。



「血液事業の現状」について（愛媛県赤十字血液センター 松坂所長）

現在、採血された血液の殆どが病気の治療（約8割強）に使われ、この血液の使用される年齢層は、殆どが50歳以上の高齢者（50歳未満は15%程度）だそうです。高齢者の増加による血液需要が増加する中、少子高齢化による若年層献血者の減少や若年者の献血意識の衰退及び採決不適格者の増加など献血者数が減少しているそうです。

身近に輸血の必要性を感じていれば献血の大切さも理解できるが、日常生活の中での意識や関心は低いのだろう。

当クラブにおいて、今年度の献血活動を実施する際には、より多くの献血者が集まるよう努力したい。



「献眼」について（財団法人 愛媛アイバンク 兵頭事務局長）

角膜移植、角膜提供者の制限、献眼登録、献眼可能な時、献眼後、などの説明がありました。自分自身が亡くなった後、「もう一人の人生をその人の瞳となって・・・」この言葉に、私自身の亡くなった後を想像し（火葬後の棺の中には、臓器など何も残らない。ただ骨だけが整然と並んだ状況。）“もう一人の人生を瞳となって生きる”ことに「私は、感動しました。」また、言い換えれば形の違った“WE SERVE”であるような気がします。

平成20年3月末の「愛媛アイバンク」角膜移植者数6名。常時移植を待っている者30名から40名（約5年から6年間程度の移植までの期間が必要）一人の献眼（2眼）で、二人の視力回復



が可能。このような状況を聴き、私は「献眼登録のはがき」を送付しました。

私たちクラブメンバーが、今すぐに登録しても献眼できるまでには、相当の年数を要します。今後のクラブ活動において「諸施設等への慰問」は勿論のこと、様々な活動機会毎に「献眼、即ち“アイバンク登録”」を呼び掛けたいと思います。

.....



真鍋信彦さんの残してくれたプレゼント

.....

第一副会長 徳増達史



会社内の人事によりご栄転となり、2009年6月30日に退会された真鍋L.が西条ライオンズクラブメンバーとして活動したその姿勢を振り返ることにより、彼が私たちの心に残してくれた『おみやげ』を探してみたいと思います。

真鍋L.は昭和30年6月23日生まれで、血液型はO型、もうすぐ51歳を迎えようとする2006年6月20日当クラブに入会し、この年度は『PR.広報委員会』に所属しますが、10日あまりの日数で、実質的には翌年度2006年7月からの『環境保全保健福祉委員会』が最初の活動の場となりました。

この委員会の委員長を務めた原L.の談によりますと、『何よりも偉ぶらないところが人を惹きつける魅力でしょう。』『ゴルフでは、寸止め、寸止め、と和やかな空気をつくる。』『家族想いで、ウォーキングが好きで、どこへでも歩いてやってくる。』という健康的で、穏やかな好男子でした。

2007年7月からは『青少年指導委員会』に所属となり、この年の重点事業であった『呉 大和ミュージアム&てつのくじら館 親子社会見学』において、重要な役割を担ってくれました。この委員会の委員長であった花山 L.の話によりますと、この事業の遂行討議の中で、必ず事業全体を見渡す 目線を忘れずに発言をする姿に、大きな組織の長（工場長と言う立場）としての能力に感心した上に、見学に来てもらう小学生は片親の子供とか普段このような体験の不足している子供が参加できるような配慮が必要と、真剣にその方策を練っている姿に、人を思いやるやさしさの備わった人だと感じたそうです。お酒は強く、カラオケは上手く、几帳面で誠実な人でしたと語ってくれました。

最終年度2008年7月からは『出席・計画委員会』での活躍となりました。この委員会の委員長であった高木 L.が語るには、まず感心させられたのは、例会欠席時に事務局に事前連絡をした上で、必ず直接委員長に欠席の旨及び理由を電話連絡してくれたそうで、その気遣いに感激したそうです。高木 L.は2年間真鍋 L.と同じ委員会で過ごしたのですが、大きな組織の長と思わせるような事は一度もなく、本当に普通の好青年（壮年？）と言う感じで接してくれただけに、余計に真鍋 L.への信頼が増したとのことでした。

更に、委員会のチームワークを大切にし、チームワークを蔑（ないがしろ）にする行為は嫌う人物で、ここでも人と人との絆を大切に考える真鍋 L.の心情が垣間見えます。

私は、ゴルフ同好会、全体事業とその後の懇親会等のお付き合いの中で、いつも温和な笑顔で人と接する姿に清々しさを覚え、適確な判断と行動をさりげなく実行する能力に信頼感を感じ、弱者をいたわる姿勢に尊敬の念を抱きました。

7月2日水都館での送別会に30名ものメンバー等が集合したのも、真鍋 L.の人的魅力を感じたメンバーがいかに沢山居たかを証明するものです。

真鍋 L.は私たちの心の中に、誠実に生きること、弱者に対する思いやり、チームワーク（人と人の絆）の大切さを刻んでくれた上に、偉ぶらない姿こそ信頼を得ることに繋がると云うことをプレゼントしてくれたのではないのでしょうか。

ありがとう真鍋 L.、今後のご活躍をお祈りいたします。



蝶ネクタイが驚くほど似合う方です

会員短 信

L・伊藤修一郎

昨年9月の「リーマン・ショック」以降、世界的に金融危機が続いており、日本においても社会状態は100年に1度の不況で、最悪の状態が現在でも小康状態で推移しております。又、本年5月21日より「新裁判員制度」が実施されるとともに、社会のデジタル化、官から民へ等、世界を見据えた制度化が加速しております。例年の課題である会員増強、委員会のアクティビティにも多少の影響があると思われま。それに臆することなく、各委員会のアクティビティにおいては、この10年来全く同じ事業のみを実施しておりますので、必要で不可欠な継続事業は別にして、各委員会で「ウィサーブ」の基、ひとつでも時代に沿った特色のある新しいアイデアを出して、単年度事業をしていただけたらと思います。

執行部は、【50周年の通過点】と考えず、記憶に残る実りある1年間にして欲しいと思います。



新会員紹介

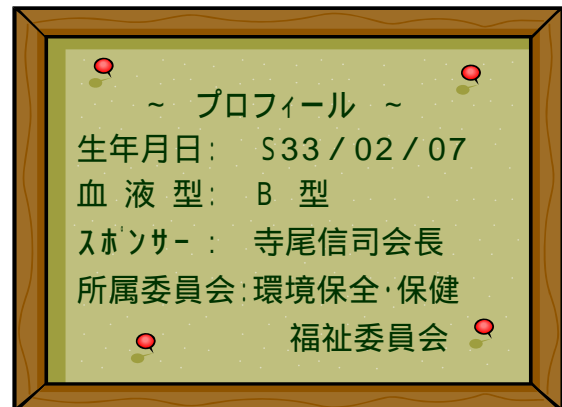


ライオンズクラブの皆様、こんにちは。四国電力株式会社 西条発電所の山内です。私は、昭和57年に四国電力に入社しました。技術畑出身で、入社以来主に設備のメンテナンスを担当してきました。西条発電所は2度目の勤務で、6年前に転出するまで、約2年半、ここ西条で過ごしました。今思い出しますと、当時はあまり社外の方々、特に地域の方々とお付き合いはなかったように思います。(一般的に技術屋は、仕事柄私も含め、地域の方々と接する機会もあまりなく、人的交流が苦手な人が多いようです。)

しかし、所長としての私の仕事は、これまでと違い、発電所の顔として地域の皆様に電力会社というものをご理解して頂ける様、積極的に働きかける必要があります。また所員には、いかに気持ちよく仕事をしてもらうか、そういった職場環境づくりが大切であると思っています。

そのためには、自分の主張だけでなく、相手の立場に立って考えることの大切さを最近痛感しています。そんな中、くしくも今回、西条ライオンズクラブの一員として「社会奉仕活動」に携われるチャンスを得ました。

今回のクラブ入会は、仕事面でも、社会人としても、自分にとって大きな転機になると思います。特に、これまであまり経験してこなかった、地域の方々とおつきあい、また奉仕活動を通じ、人間としての幅をひろげ、地域に溶け込むことで、人的ネットワークを広げられればと期待しております。 諸先輩の皆様どうぞよろしくお願い致します。



【編集後記】

このたび第49代寺尾丸で、PR・広報委員長を務めさせて頂くことになりました。本年度は、西条ライオンズクラブ全会員の方の原稿を載せたいと考えております。

西条ライオンズクラブの活動を、しっかりお伝えして行くとともに、楽しい会報誌を目指し、委員会一丸となって頑張りますので、ご協力宜しくお願いします。

PR・広報委員会委員長 土居恵三

発行所 ライオンズクラブ国際協会 336A地区 2R4Z
西条ライオンズクラブ
事務局 〒793-0027
西条市朔日市 779-8
西条商工会館3F
TEL (0897) 56-3980
FAX (0897) 56-9251
E-mail saijo-lc@abeam.ocn.ne.jp

発行者 会長 寺尾信司
幹事 野間賢次郎
PR・広報委員長 土居恵三
編集委員 清水泰雅 ・ 西原 功
加藤 茂 ・ 安藤憲正
塩崎秋義 ・ 伊藤隆治
例会日 第1・第3火曜日
例会場 黒猫レストラン
印刷 西条ライオンズクラブ事務局